

## 聖書と神と自然災害 立石尚志

この秋口はハリケーン、洪水、地震と北米に住む人々の多くが自然災害に見舞われ、困難に遭っています。犠牲者の遺族を覚え、また被災者たちの復興のために祈り、私たちにもできることを求めていきましょう。

● 自然災害を目の前にする時、クリスチャンであるかないかに関わらず「神が愛だと言うなら、なぜ神はこのような災害を許されるのか」という疑問が湧いてきますし、相応しい解答がないように思えます。しかし聖書を読み、神が語っておられることに耳を傾けるならば、私たちが覚えておくべき大切な事柄が見えてきます。筆者が思いつく五つのポイントを分かち合しましょう。

### 1) 神は私たちが「生きている惑星」に住まわせている：

「わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。」ヨブ記 38:4 とありますが、神は私たちが生存できるよう知恵を持って地球を生きた惑星とされました。地球内部のマントルの対流が地磁気を発生させ、太陽の有害な電磁波が地表に届かないようにして生命を守ります。地球の自転公転と地軸の傾斜によって気象現象が起こり、月の潮汐力も加わって海は毎日かき混ぜられ鮮度を保ち、生命に必要なサイクルが与えられます。これらの同じ力が地震や津波、嵐、大雨、洪水、噴火、山火事を引き起こしますが、大きな視点で見ると、これらは皆、地表を新しくし、生命や環境を更新させる大切な役割を果たしているのです。歴史のある地域でせつかく先祖たちが大災害について警告を残してくれていても、警告を無視し、無謀な場所に無防備な家がどんどん建てられて行くと被害が拡大します。

### 2) 人と被造物 (Creation) との関係は墮落ゆえに壊れている：

人間は神から地を治め、動植物を管理する責任を与えられましたが、その責任を正しく果たすための条件は神への従順と信頼でした。しかし人は神に反逆し、罪に落ち、被造物を正しく治める能力も道筋も失いました。自分中心になった人間は動物や植物を乱暴に扱い、乱獲や無謀な伐採などで絶滅をもたらし、環境を汚染し疲弊させ、今や土壌汚染、スモッグ、酸性雨、温暖化、放射能汚染と、様々な環境破壊が起きています。被造物は墮落した人間の支配下にあるため「虚無に服し／滅びの束縛にある」(ローマ8章20-21節)と聖書は記しています。土砂災害、象による報復殺人、MRSA 等々、抑圧された自然界が暴君である人類に仕返しをしている姿も近年私たちは経験しています。

### 3) 神は裁き的手段として自然災害を用いられる：

人間は近年、気象予報、地震予知の精度を上げることができるようになり、気象さえも制御しようと野心を燃やしています。しかし人間を創造された神にとっては、スーパーコンピューターによる予測は幼児の遊びでしかありません。神が自然を自在

● 自然災害を直に目撃したり、実際に巻き込まれたりするとき、私たちがいかにちっぽけで、いかに環境に依存した存在かを知らされます。こういう時こそ、神の前にへりくだり、高ぶりを悔い改める時なのだと思います。同時に私たちと自然界との関係が基本的に壊れていて複雑なものとなっている現実を受けとめ、神が必ず回復の時をもたらしてくださるという望みを抱きつつ歩む必要があると思います。そして、自然災害によって苦難に陥っている人たちが周りにいるなら良き助け手となり、私たち自身、助けを必要とするときにはへりくだって助けを受け入れるものとなっていけたらと思います。■

グリニッチの教会は SAMARITAN'S PURSE 経由、テキサスのハリケーン被害者のための支援金をまず募っています。ご協力ください。教会宛に災害援助とメモして献金して下さるか直接団体の Web ページから支援金をお送り下さることもできます。ボランティア活動についても追ってお知らせします。  
<https://www.samaritanspurse.org/>

にコントロールできることを忘れてはなりません。神は人間の墮落に対する裁きとして、幾度か大きな自然災害が起こることを許可されました。全世界を滅ぼしたノアの大洪水、ソドムとゴモラを壊滅させた天からの火と硫黄、モーセの時代のエジプトに下された各種災害など例として挙げられます。しかしこれらは例外で、ほとんどの場合、神は世の中の現象が自然に展開していくよう定めておられます。「TIME & CHANCE 時と機会 (伝道者の書9:11)」という言葉の通りです。

### 4) キリストの再臨が近づくに伴い、自然災害が増える：

神に背を向けた罪人たちの時代に終止符を打つためにイエス・キリストが主と王 (Lord & King) として戻って来る出来事を再臨と言います。懐かしいテレビドラマ「水戸黄門」のクライマックス… 越後の縮緬問屋が先の副将軍・水戸光圀であることが明かされ、裁きがなされる時と同じです。クライマックス直前、悪者は悪者としての真の姿を現し、正義が全くないかのような絶望的状况になるのと同じように、今の世界も終末期に入ると悪がますます増大し、自然界もまたうめき、苦しみ「方々に地震があり、飢饉も起こるはず」(マルコ13:8) とキリストは預言されました。聖書の最後の書物であるヨハネの黙示録には、キリストの再臨が近づくと自然界は猛威を振るい始め、大災害によって人が大量に死んでいくことになることも預言されています。

### 5) 人と被造物が真の調和を持って生きる時代が来る：

キリストの再臨により悪の世に対する裁きがなされた後、神は自然界に課せられた「虚無」と「滅びの束縛」を取り除かれます。キリストが真の王となり、神に従う人々が正しく地球上のすべての動植物と環境を治めるようになり、自然界は長く待たされた「神の子どもたちの栄光の自由」(ローマ8章20-21節)をようやく享受することになります。再臨前の苦難の時代に、自分の罪、世の罪に心を痛め、悔い改めて神に立ち返り、キリストを受け入れた人々は復活させられ、その時代に生きることができると約束されています。

## 【LIFE CHANGE のきっかけ…ゴスペル音楽】 柴野一紗 (第1~4期ゴスペルメンバー/洗礼の証)

私を聖書の登場人物に例えるならば、マルコの福音書5章に出てくる悪霊に取りつかれ墓場にいた男がふさわしいかと思います。私が生まれたのは、片田舎の農家でした。こういった家では、生きているものの幸福よりも先祖伝来の家、墓、田畑を守ることが第一義とな

ります。私の生家もまさにそういった家で、家族はそのためにみな心に深い傷を負っていました。この家は死人のためのものであり、その意味で墓場でした。私はそんな家に3人姉妹の長女として生まれました。自分に子供ができなかった祖母は私に異常に執着していま

した。幼いころは妹だけをかかわる母に甘えられず、長じて祖母の異常性に気づいてからは、祖母に育てられた私も同じように異常なのに違いないと劣等感に苦しめられていました。祖母のいる部屋にも、母たちのいる居間にも入れず、日本家屋の真っ暗な土間で一人泣いていたことを鮮明に思い出します。

大学の進学先を選ぶときには、とにかく実家から通えないところを選びました。それは特に希望した学部ではありませんでした。恐らく私はもっと確かなもの、本当のもの、美しいものを探していましたが、宗教学をとっても、哲学をとっても満たされることはなく、次第に大学からも足が遠のき、結局、世間では有名大学と言われている学校も中退してしまいました。結婚し、子供も与えられましたが、心が愛で満たされたことのない私は不平不満でいっぱいでした。あらゆることに憤り、嘆き、老後のことを心配しては絶望する毎日でした。どんどん体の中に死人の悪霊を取り込んでいました。如才なく振舞いつつ、私は心の中には決して誰も立ち入らせまいと壁を作っていました。誰からも愛されたことがないという事実を知られることは、みじめすぎて耐えられないと思っていました。本当に神様に背を向けた、恐ろしいほどの罪人でした。

2011年に、夫の仕事の都合で渡米し、奇跡的に導かれグリニッチ福音教会で出会ったのがゴスペル音楽でした。疎外感と劣等感にずっと苛まれていた私に、艱難辛苦の歴史を辿ってきたアメリカ黒人の叫びの音楽はすんなりと入ってきました。そして、そこに歌われる神様の愛とは何なのだろう、なぜ彼らはこんなにも神様を信頼しているのだろうと、次第に心を惹かれていきました。でもあまりにも罪にまみれていた私は、それを傍観するだけで自分に関係があるとは思いませんでした。神が彼らのことを愛しているのは分かった、でもこんな小さな私なんて見てないと思い込んでいました。

ある日とうとう、私は神様に呼びかけました。それはコンサートの最中だったのですが、ゴスペル音楽のパターンとしてフレーズを何度も何度も、執拗に繰り返します。その繰り返しの中で次第に重い荷物だった自我を手放し、心を開いて叫んだのです。その瞬間、滝のように涙が溢れ、心の中に怒濤のように喜びと、愛が流れ込んできたのがはっきりとわかりました。私の中の悪霊レギオンは、このとき豚に乗り移って湖でおぼれ死んだのでしょう。

それから一週間後に、日本への帰国を言い渡されました。目の前が真っ暗になりました。やっと出会えた神様についていくことは許されれない。どうして?もう終わりなんですか?と、私は毎日泣き暮らしていました。容赦なく時は過ぎ、夫から日本の新居の住所を伝えられました。寄る辺ない不安いっぱい、私は住所を検索しました。その瞬間、タブレットは私にとって福音書でした。新居の隣は、教会でした。愚かな私は神様が日本に帰っても私の手を離さないでくださること、私のことすらをも深く深く愛して必要としてくださっていることを、この時に至ってやっと確信できたのです。

今までの、深く傷ついた、真っ暗な土間で一人泣いていた少女の私、ぼろぼろの憐れな子羊が、羊飼いである主によって緑の牧場に導かれ、たつぷりと癒された後、私はやっと立ち上がって次の一歩を踏み出すことができました。それが帰国から一年を経たこの告白です。聖書はこの逸話をこう結んでいます。

「あなたの家族のもとに帰って、主がどんなに大きなことをしてくださったか、またどんなに憐れんでくださったか、それを知らせなさい。そこで、彼は立ち去り、そして自分にイエスがしてくださったことを、ことごとくデカポリスの地方に言いひろめ出したので、人々はみな驚き怪しんだ。」(マルコ5:19-20)

これが私の使命ですから、私の声がある限り、イエス様のみ名を称えます。私を縛ってきた死の墓場の呪いから、そして私の罪から私を贖いだされるために、神がその一人子であるイエス様を十字架につけられたことを信じます。そして、十字架で死なれたイエス様が3日後に復活し、死と墓とに勝利され、今も生きておられることを信じます。私の唯一の救い主である主を信頼し、み前に全てをお捧げ致します。

ハレルヤ。

8月27日■



## ■ 2017年 秋の集会・行事予定 ■

下記以外にも週の間に入門クラス、聖書の学び会等が行われています。お問い合わせください

### 【定例集会】

- ★ 日曜礼拝 / 10:00~11:30  
交わり会 / 11:30~12:00
- ★ 祈り会 / 水曜日 10:00~12:00

### 【各種集会】

- ★ スタンフォード 聖書を読む会  
隔週木曜午後2:00 場所: 井上宅
- ★ ハートフォード 聖書を読む会  
隔週月曜、毎週木曜午前 要問合せ

- ★ グリニッチシニア 聖書を読む会  
毎週火曜午後4時 場所: 教会図書室
- ★ サラトガ家庭集会  
月1回 10:30 場所: キャスパー宅



### ☆☆☆ 塩谷美和 & CO. 一日ゴスペルワークショップ (\$30) 9/18 (月) 午前10時~12時

会場: 教会 内容: 発声と曲、ダンス講師によるリズムの取り方、ゴスペルダンスのパフォーマンス披露

### ☆☆☆ ハリソン英会話クラス ERIN と話そう チラシ ⇒ [http://jgclmi.com/2017Fall\\_English.pdf](http://jgclmi.com/2017Fall_English.pdf)

- ・ 毎週火曜、10:00~11:45 全12回 9月26日(開始)~12月12日(最終日) 講師の交通費として全12回で\$40
- ・ 場所: Harrison Presbyterian Church 181 Harrison Ave. Harrison, NY 10528

### ☆☆☆ 秋のゴスペルワークショップ チラシ ⇒ [http://jgclmi.com/2017Fall\\_Adult\\_Gospel.pdf](http://jgclmi.com/2017Fall_Adult_Gospel.pdf)

- ・ リハーサル: 10月19日から8回 毎週木曜、午前10時45分~午後1時 ・ 本番12月17日 ★ 参加費: \$170
- ・ 会場: 教会 ・ 参加資格: ゴスペルを歌いたい人なら誰でも ・ 講師: ティム・ライリー & グレグ・ケリー

### ☆☆☆ 秋のキッズ・ゴスペル チラシ ⇒ [http://jgclmi.com/2017Fall\\_Kids\\_Gospel.pdf](http://jgclmi.com/2017Fall_Kids_Gospel.pdf)

- ・ リハーサル: 10月24日から8回 毎週火曜、午後4時45分~6時 ・ 本番12月17日 ★ 参加費: \$150
- ・ 会場: 教会 ・ 参加年齢: 6歳~12歳(それ以外も希望に応じます) ★12名以上決行 ・ 講師: ティム・ライリー & グレグ・ケリー

### ☆☆☆ 9月、10月のウェルカム礼拝

日時: 9月24日(日) 説教: 錦織学先生、証: 武隈恵理佐姉、 10月29日(日) 説教: 立石、証: 未定

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830

website: [www.jgclmi.com](http://www.jgclmi.com)

《問い合わせ》教会 TEL/FAX(203)531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203)531-1609

e-mail: [church@jgclmi.com](mailto:church@jgclmi.com)

